

～保育者の気付きを促す風になるために～

《事前準備》

- ・訪問要請書等に基づいて、園の悩みや知りたいこと等を把握する
- ・園の特色や理念を理解し、参考資料を準備する など

《保育参観》

<訪問時の心がけ>

- ・見られているだけで気になったり、緊張したりする保育者もいます。
- ・子供が面白がっていることや夢中になっている遊びを笑顔で参観しましょう。

- ◆園の悩みや知りたいことに沿って、保育を分析する視点を探り、子供の姿や保育の記録を取り、協議や助言に生かしましょう。

アドバイスのための観察のポイント→P4 参照

- ◆保育者の気付きにつながるポイントを意識して、記録しましょう！
 - ・保育者の願いや思いと、実際の環境の構成や援助の関係性は？
 - ・子供の育ちや学びを、保育者はどう読み取っている？
 - ・今日の遊びや活動の意味を、保育者はどう意識している？

記録の取り方・考え方→P5・6 参照

《協 議》

- ◆協議前の論点整理
 - ・よさや課題、可能性の整理
 - ・園長や進行役の保育者等に、協議の視点や方法（例えばラベルワークの方法と時間配分）等を提案

- ◆協議の視点や方法等が決まれば、なるべく園の運営に任せていきましょう。

研修・相談の進め方→P7・8 参照

保育を分析する視点があれば、協議の内容が分かりやすくなりますね。



園の主体性や理念、努力していることなどを積極的に受け止め、伴走者として関わります。1回の訪問で全ての課題を解決しようと焦るのではなく、園が求めていることを焦点化し、今後の方向性を共に探りながら次回につなげましょう。

保育観察のポイント

～保育の質向上につながるアドバイスをするために～

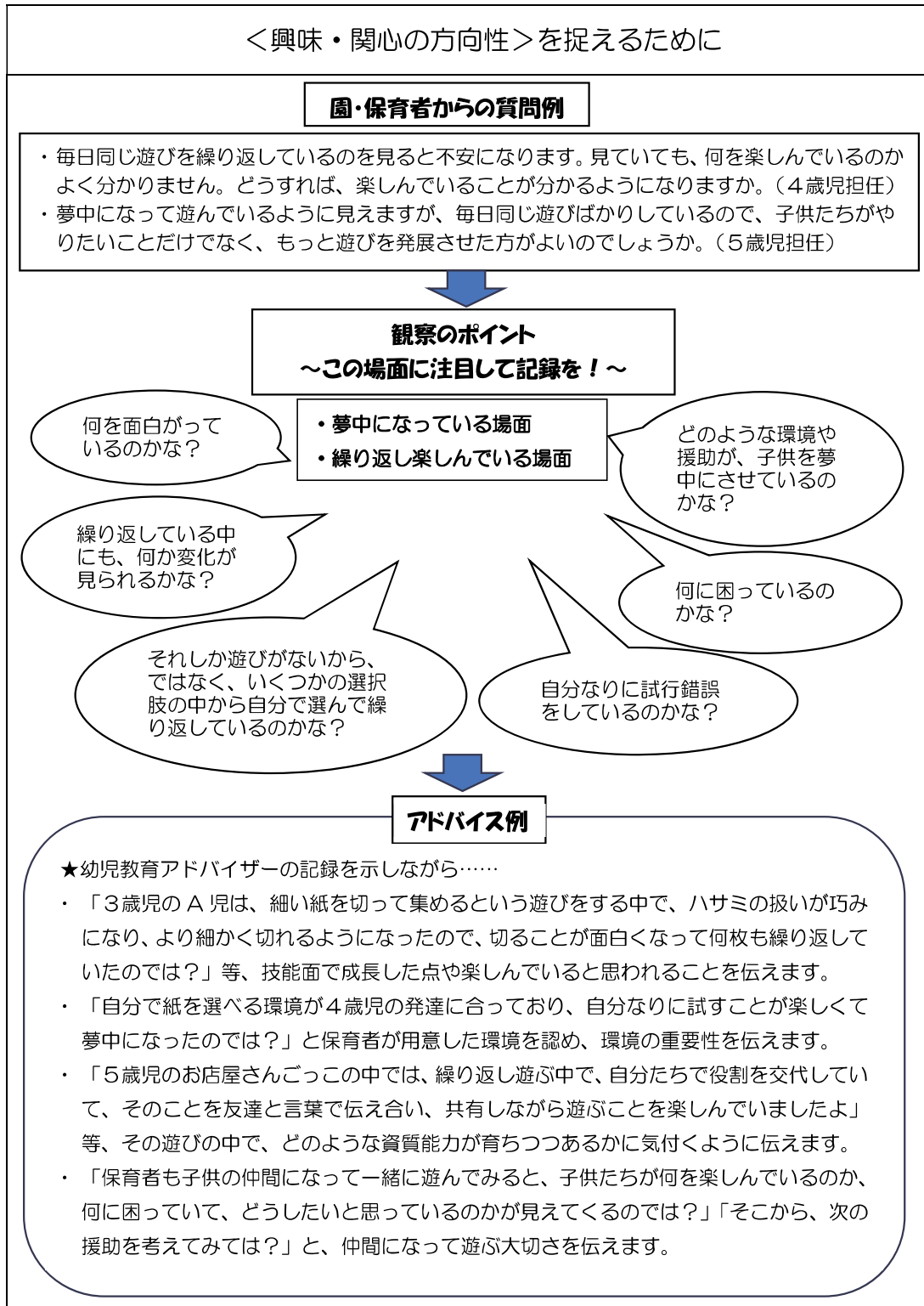
保育の参観は、全体を見ながら、園の悩みや質問の内容に応じて**子供の動きや特性、子供同士の関係性などに注目して意識的に観察記録を取り、アドバイスの中で、子供の具体的な姿を**基に保育者と一緒に考えるようにしましょう。

		観察する項目	観察のポイント
保育を分析する視点	子供理解	遊びや生活の姿	子供の興味・関心の方向性 → P5 参照
			子供同士の関係性やコミュニケーションの様子
			遊びや生活の中での子供の経験（学び）
		年齢や発達の姿	0歳児～5歳児の発達の特徴を捉えた遊び
	一人一人の発達の特性に応じた具体的な支援 → P6 参照		
	保育内容	活動内容	子供が展開している遊びと体験の積み重なり
一人一人の遊びと学級全体の活動のつながり、充実			
幼保小の接続を意識した交流活動等			
環境の構成		遊びに必要な遊具・用具・素材等の配置と再構成	
		子供が自ら進める遊びの場づくり	
		自然事象や社会事象等を生かした教材の工夫や状況づくり	
援助		一人一人の思いに応じた、発達と学びにつながる援助	
		集団での遊びを豊かにする援助	
振り返り	保育の記録	記録の取り方とその内容（子供の言動や関わり・エピソード）	
	指導と評価	子供が経験した内容と保育者の働き掛けとの関連	
	指導計画	振り返りで気付いたこと・今後の方向性	

アドバイスのヒントとなる

園から様々な質問を受けたり、アドバイスを求められたりします。その際、質問に応じてどのような場面に注目し、記録を取ればよいのでしょうか？焦点化して記録するとアドバイスのヒントが見えてきます。その例を紹介します。

～園・保育者へのアドバイス例①～



園や保育者からよく質問されることを想定して例示しています。

学級の全体的な様子を見ながら、園からの質問の内容に応じて、どのようなことに視点をあてて記録を取るとよいかを例示しています。

子供の言動や表情、保育者の援助など、記録したことをどのようにアドバイスに生かすとよいかを例示しています。

記録の取り方・考え方

訪問支援の結果を資料に残していくと、その後の幼児教育アドバイザー同士の学び合いに活用できます。アドバイス例①・②のような形式も参考にしながら、学び合いの際に活用しやすい様子を工夫し、域内の園の様子に応じた資料を蓄積していくとよいでしょう。

～園・保育者へのアドバイス例②～

